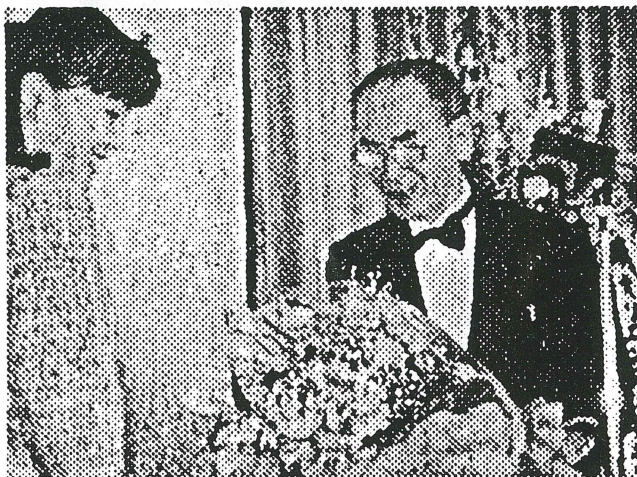


# 真向法で百歳まで長生き

神戸で外島氏 激励受け意気軒高  
の米寿祝う会



お孫さんから祝いの花束を贈られニッコリする外島健吉氏—神戸市中央区、オリエンタルホテル



会議所会頭ら約百二十人が駆けつけ、「百歳まで長生きを」と、健康を祈った。

祝う会では、亀高素吉神鋼社長が「社長時代の外島先輩は神戸製鉄所の溶鉱炉を建設し、悲願であった一貫メーカ―脱皮への先頭に立った」と功績を披露。

また、貝原知事は「くじけ

そんな時に「かじりば」でもらい、勇気百倍になったこともしばしば」石野会頭は「八方破れのように最後は筋が通る特異な人柄。それで神戸がまとまり私も楽に会頭職を引き継がしてもらった」と、それぞれあいさつ。百歳を迎えた中井一夫神戸市長から花束が手渡されると、長寿を祝って割れるような拍手が起った。

最後に、外島氏が「秘書の書いた謝辞は見んとく」と冗談を飛ばしながら、「長生きのノウハウは毎日する真向法と少々の酒、中井先生にあやかるともり」と意気軒高なところをみせていた。

外島健吉氏の米寿を祝う会  
(神戸新聞 平成元年九月七日 朝刊 より転載)

## 辰巳だより

### 本部秋季例会

平成元年十月二十日(金)  
於 新歌舞伎座 (大阪)

今回は趣向を変えまして観劇としゃれ込んで参りました。  
本来ならば歌舞伎、文楽等古典的なものにしたかったのですが、残念乍この時期にその様な演目がなく、西條秀樹、汀夏子主演による時代劇とそれぞれの専門になる歌曲を見聞し、大いに若返り、楽しい一日を過して来ました。

### 東京支部秋の旅

平成元年十一月十日秋の例会に奥秩父の荒川村までバス旅行した。

### 辰巳会秋季例会名簿

平成元年十月二十日 於 新歌舞伎座

安東恒子	高畑千代	五十嵐集平	高義子	小倉五郎	藤田健作	奥田さき	堀内宏展	楓雅之	土田美津子	桂芳男	松下重男	木下清三郎	南前義夫	源島ふさ	森田博明	佐野寿夫	安並正道	鈴木種子	柳田直子	高畑喜代子	計	二十四名
------	------	-------	-----	------	------	------	------	-----	-------	-----	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	---	------

前日まで雨模様様の天気で心配だった。予報では当日は晴れということなので安心していましたが朝まで雨は降り続き天気回復は少し遅れる感じである。参加者二十五、内三名欠席。

定刻八時三十分、東京駅丸ビル前を雨の中出発する。バスは藤田観光のハイトップ・サロン・グ

レースという名前だけ聞いたのでは分らないが超デラックスバスである。カラーテレビはどのバスでも付いているがボトルクーラー、コーヒーメーカー、湯沸器、電子レンジ、トイレ付化粧室まであり、然も座席は三六〇度回転シートである。車体も高いので景色を眺めるのも楽である。

バスは都内を抜け練馬ICから関越自動車道へ入り一路北へ向う。こ、で幹事の安東さんが挨拶雨なので大変恐縮している。  
「お天気だと借金している人は困るそうです。皆さんが返せ、返せ(快晴、快晴)と言われるから」と冗談を飛ばして皆の心を和ませる。

運転手も年配の方で丁寧な運転なので安心、ガイドさんもベテランらしく色々喋り続けて皆を飽かさなさい。お茶や缶ビールが配られる。あ、かき番茶配られバスの旅

一〇時高坂SAで休憩、雨もどうやら上った。花園ICを出、国道一四〇号線に入り一路西に向う。荒川に添って五色に色どられた紅葉の山々を左右に見乍らバスは順調に走る。

### 辰巳会東京支部 秋の例会参加者

平成元年十一月十日(金) (五十音順)

加藤福雄	加地彦太郎	大久保潔	讀川	上野	植野	移川	安東	荒木	芦原	加藤	加地	大久保	讀川	上野	植野	移川	安東	荒木	芦原
伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴	伴
石井好夫	西川明子	中島英吉	拓山寿郎	田辺満寿子	建部清也	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同



秋の雲秋の山見て気ま、旅

休日はこの辺は渋滞するそう。やがて長瀬に出る。景観の美と川下りで有名な所で紅葉に色どられ遙か道路下を流れる急流に暫し見とれる。長瀬を過ぎる頃から道は南に曲り秩父をめざして走る。

秩父路や薄日に映えて秋のくれやがて左手に武甲山が雲間に顔を出す。一三三六米、ガイドの説明によれば金山石灰岩で秩父セメントのセメント原料になっている。何十年の間削りとられているのであちらこちら地肌を晒して痛ましい姿である。

十一時過ぎ秩父市に着く。こゝで武甲正宗秩父酒造を見学、こゝは観光コースになっているようにの見学と日本酒の作り方を聞く。当酒造で作る最高酒大吟醸は山田錦を三五％に精米して酵母を用いて作るそう。米の大きさの三五％になるまで磨きあげ米の芯の

部分しか利用しないので旨い筈である。最後に三年物の吟醸酒やゆず酒、うめ酒、粕取焼酎(戦後に

出廻ったカストリ焼酎と違い酒粕から生れた本格的粕取焼酎)など試飲した。

酒通にあらねど老ら新酒利く成程味わいのよさに皆感心、つられて二、三本お土産に買いこんだ。予定より見学時間がオーバーしてしまつたが十二時三〇分目的地荒川村鈴加園に到着。荒川村鄙びた所で猪の出そうな所である。鈴加園は古い蕎麦屋根で屋内は土間、囲炉裏が燃えている。何組かの先着組が鉄鍋を囲んで名物猪の味噌炊きを食している。我々も食したがこゝの雰囲気合つて中々美味であつた。その内店のおやじさんが生椎茸を塩で薄味をつ

け長い串に五、六個差して石器で焼いた熱いやつを何やら口上を言いつつ配っている。こゝのおやじ鈴木さんは歯に衣を着せず伝法な



口をきくが、テレビにも出演したことがあるそうで客に人気がある。最後に出た山菜めしをビニール袋を使って三角おにぎりを器用に二つ作つて見せる。誠に鮮やかな手つきで真似て作つてみたがおやじさんのように旨く出来ないので皆大笑い。満腹

した所でお開きになる。会から椎茸のお土産を貰い、思い思いに買物をして記念写真を撮り再びバスに乗る。

あれほどの雲なくなりて山の秋十四時荒川村を出発帰路に着く。途中宝登山に寄り宝登山神社を参拝する。冬桜があつた。紅白色の直径二・五センチ位の花がまばらに咲いている。めづらしい花である。

うすうすと火伏せの宮の冬ざくら後は朝来た道を戻り花園ICから関越自動車道に入り一路東京に向け順調に走り五時新宿に到着無事解散した。尚日商岩井からご芳志、ウイスキー、缶ビール等を頂戴した。

四国支部親睦会だより

平成元年十一月二十五日(出)二十



六日(日)の両日四国支部の親睦会を高知市の美門旅館に於て開きました。本部からは御多忙中松下重男様と南前義夫様が午後一時頃高知空港着便で来られました。私は車を運転して出迎えました。

午後三時頃一同旅館を出ていつもの通り高知市内の筆山墓地の金子さんのお墓まいりを致しました。午後四時頃から酒盛りを始めましたが出席者は、本部のお客様の外は、小松豊秀氏、武内雪恵さん

(美門旅館経営) 竹崎浅吉の四名

だけで、当日支障のため又は病氣のため欠席せられたのは、松山市の間室太郎氏、高知の松木三四郎氏、中屋傳太郎氏、竹崎鶴太郎氏、川沢美秋氏たちで出席者がいつもより少なくて残念でありました。

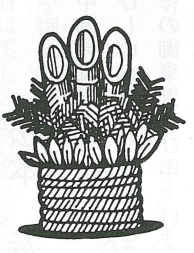
第二日は本部のお客様を小松豊秀氏と私が案内することとなり、朝宿を出て高知城の下にひろがる高知の名所日曜市場と食料品の大橋通りを見学しただけで一路高知空港に向いお見送りいたしました。誠に有難うございました。いつもは第二日は名所をゆっくりご案内いたしております。このたび病氣のため欠席のお方も次回には出席して下さい。以上誠に簡単乍ら御報告を終ります。

(竹崎 浅吉)

平成二年米寿銀盃贈呈者

米寿洵に御めでとう御座います。ますますの御長寿をお祈り申し上げます。

- |        |
|--------|
| 高畑 薫 幸 |
| 荒木 従 縄 |
| 堀内 宏 展 |
| 田代 義 雄 |
| 武井 一 郎 |
| 町田 叡 光 |
| 五十嵐 集  |
| 計七名    |



原稿募集

内容 随想 短歌 俳句 詩 写真 鈴木往時の思い出 など 必ず原稿用紙に縦書で 四百字詰五枚程度 平成二年五月末日 神戸市中央区海岸通四 新明海ビル太陽鋳工(株)内 『たつみ』編集部宛